



//// 第66回 高等学校卒業式 2023年3月1日(水) ////

司教メッセージ

カトリック京都司教 パウロ大塚喜直

ヴィアートル学園洛星高等学校を卒業される皆さん、コロナ禍が続く3年間の学校生活でした。多くの制限がある中で、コロナ禍がなかったら、もっといろいろなことが普通にできたのに、と悔しい思いをしてきたことでしょうか。その中でも、仲間たちと励まし合い、出来ることを探し、創意工夫する術が身に付いたのではないのでしょうか。

個人でロケット開発をしている植松努さん(1966年北海道芦別市出身、技術者)が次のように言っています。《全ての人は世界を変える可能性があり、人の役に立つ可能性があるのです。「やっても無駄だ」とか「どうせ無理だ」という言葉に負けなために、一言だけ、効果的なせりふがあります。「だったら、こうしてみたら」です。人はやったことがないことと、知らないことにしか出会わないのです。》

いずれパンデミックが収束したとしても、世界が以前の安定に戻れないことは、過去のパンデミックの歴史が証明していますし、戻るわけにはいきません。この苦難が終わるとき、新しい何かが生み出され、世界全体が今より少しでも良くなっているために、今、わたしたちが変わるためのチャンスなのです。自分は何に価値を置くのか、何を求めるのかの優先順位を見直し、勇気をもって新しい歩みを始める「救いの時、恵みの時」です(Ⅱコリント6・2参照)。

神は、歴史の中で、わたしたちの一人ひとりが働くことを期待しておられます。皆さんの一人一人の努力と愛の業が、まわりの人の幸せにつながるのです。そして、すべての人が人間らしく生きることができる公正で友愛に満ちた世界を築くことができるのです。今という時代がどれほど困難な問題を抱えていようとも、心の眼を大きく見開いて、希望と忍耐と持続力をもって、自分の目標に向かって歩み出してください。

キリストはいつもそばにいて、助けて下さいます。これからの人生において、神の恵みと力づけが豊かにありますように、わたしから祝福をおくりします。

世を照らす輝く星であれ You raise me up

洛星高等学校 校長 小田 恵

66期生の皆さん、卒業おめでとうございます。

みなさんは今日、洛星を巣立たれます。今、皆さんは胸中どのような思いを抱いているのでしょうか。

この3年間、66期の皆さんの高校生活には常にコロナの影がありました。

昨年度、私は担任していた65期生のひとりが卒業後、「コロナでいろんな学校行事が取りやめとなっていく中、それについて『あ、また取りやめか。しかたないな』とあきらめ、なくなることが普通だと受け入れてしまう日常だった」と振り返っていました。

66期生の皆さんは、高2の時には学園の中心となって行事を動かすべく、高校1年から、あるいは中学3年から周到に準備を重ねてくれました。しかし、コロ

ナ感染拡大により遠足も北海道の研修旅行も中止、文化祭も延期の末、11月に高校のみの実施という形になりました。また、体育祭も延期の末、中止。苦渋の判断だったとはいえ、66期の皆さんは、非常に悲しい思い、そしてやり場のない憤りを胸に抱いていたことでしょう。平然と、飄々と日常を送っているように見えていても、皆さんはコロナや社会の都合などでは決して冷めることのない情熱を持ち続けてくれています。それは昨年度11月に行われた文化祭閉会式での、文化祭企画委員長の田中君のスピーチに象徴されています。

「つらかったけど、自分たちがやらなければ次につながらない。洛星文化祭を次に引き継ぐために努力した」と、涙ながらに語ってくれた姿は、今でも鮮明に眼の奥に焼き付いています。

コロナ禍を経験したからこそ得たものも、もちろんあったことと思います、しかし、もっとも楽しく輝いているはずの高校時代に、このような思いをさせてしまっていたことに、大人として申し訳なく思うと同時に、そんな状況でも上を向いて進もうとする姿をまぶしく頼もしく感じています。

私たちをとりまく世界状況は依然として厳しく過酷です。ウクライナを始め各地でやまない不毛な紛争、大地震、気候変動による干ばつ、洪水などの災害。このような中、皆さんは社会に、世界に羽ばたいていきます。前途にはこれまで以上の不安と希望、落胆と期待が待っていることでしょう。そんな皆さんに、はなむけとして、私の好きな歌詞を贈ります。

When I am down and oh my soul, so weary
When troubles come and my heart burdened be
Then I am still and wait here in the silence
Until you come and sit a while with me
You raise me up so I can stand on mountains
You raise me up to walk on stormy seas
I am strong when I am on your shoulders
You raise me up to more than I can be.

この「you」は、わたしたちそばにいてくれる人です。友であり、師であり、家族であり、そして、常にわたしたちに寄り添い、見守ってくださるキリストです。どんなときにも独りではない、神が、キリストが、見守ってくださっていることを忘れないでください。

そしてまた、歌詞にある「you」は、あなた方自身でもあるのです。皆さんは、愛されている存在として、恵まれた環境の中で日々を送っています。これからは、「愛する」人として、困難に苦しむ人々の力となる「you」に、なってください。洛星を卒業する皆さんなら、66期の皆さんなら、きっと多くの人に寄り添い、力づける存在となってくれることと私は信じています。

最後に、卒業生の皆さん、みなさん一人ひとは、輝く星です。その光は日々輝きを増し、世の中と人の心を照らしていく希望の星です。これからの皆さん一人ひとりの人生の上に、神が、恵みと祝福を豊かにお与えくださいますようお祈りして、お祝いの言葉といたします。卒業、おめでとう。